

山行

杜

牧

遠く寒山上 石径斜

白雲生 処人家有

車停めて坐 愛す楓林晚

霜葉は二月の花 紅

【作者】

杜牧（八〇三〜八五二年）晩唐の詩人。京兆晩年（西安市）の人。二十五歳の若さで進士に及第す。揚州に赴任した時連夜妓楼に流連（いつづけ）した。然し、美貌の風流才子たる一面、また豪放磊落（ごうほうらいらく）で政治軍事面に精通した。数州の刺史を歴任中書舍人に至った。

【語釈】

\*山行：山歩き      \*寒山：寒ざむとしたものさびしい山。      \*石径：石の多い小道  
\*坐に：なんとということなしに      \*霜葉：紅葉      \*二月：今の三〜四月

【通釈】

晩秋の暮れがた、寒々とした石だたみの山道をどこまでも登っていくと、白雲の湧いているあたりになんと人家があった。車を止めてうっとり薄色に染まった楓の林に見とれる。霜にうたれた楓の葉は春のさかりのはなよりも紅い。